

## 令和2年11月10日 市長定例記者会見 会見録

### ◆司会

ただ今から市長定例記者会見を開催いたします。本日の話題は1件です。

市長、よろしくお願いいたします。

### ◆市長

はい。この頃のテレビコマーシャル等でも流れていますけれども、11月は児童虐待防止強化月間です。そのシンボルがオレンジリボンであります。静岡市もその啓発のために、様々な取り組みをしていきたいと思っております。駿府城公園の坤櫓だとか、あるいは本館あおい塔とかをオレンジライトアップをしていこうというふうに思っておりますけれども、ぜひ皆様方にもこのことについて、啓発の方、ご協力をいただければうれしいなという気持ちで、今日このマスクを付けてまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。

それではシールドも設置してくださっているのでマスクを取らせていただいて、今日の記者会見でお伝えすべきことは、令和2年度の11月補正予算案であります。市議会11月定例会に提出する補正予算の規模は、一般会計が約11億4,100万円、特別会計が約2,400万円、総額では約11億6,500万円の増額となりました。

お手元の資料の①、11月補正予算案のポイント、その資料の2ページをお開きください。今回の補正は三つの柱、すなわち海洋文化の拠点づくり、安全安心なまちづくり、そして、教育環境の充実という切り口から編成したものであります。

一つ目は、海洋文化の拠点づくりであります。アフターコロナを見据えた、とりわけ清水の地域における交流人口の拡大、地域経済活性化のための布石になる取り組みであります。まず、清水みなとまちづくりグランドデザインのリーディングプロジェクトの一つである三保海岸地区でマリンスポーツやマリレジャーを中心とした海洋レクリエーションの活性化や三保半島の回遊性の向上を図るため、民間事業者が既存施設の改修に合わせて整備するビーチステーションに対する助成経費を計上しました。なお、このビーチステーションは来年4月のオープンを目指しております。三保半島における観光情報の発信、海洋レクリエーションの振興、安全管理等々の公益機能を備えることによって、新たな賑わい拠点づくりを推進してまいりたいと思います。次は清水港の港湾整備でありますけれども、これも国と県と連携しながら、新興津埠頭の整備を始め、先週、国への要望活動も行ってきましたが、着実に進めていきます。今回の補正増により、日の出や江尻、興津エリアの整備もさらに促進をしてまいります。

二つ目は、安全・安心なまちづくりであります。客引き行為等禁止に関する条例案を11月議会に上程し、合わせて来年の1月1日に予定している条例の施行に伴う広報や啓発、および巡回指導に要する経費を計上しました。これは官民連携が不可欠であります。飲食店の皆さんとも協力をして、タッグを組んで取り組むことによって、市民の皆さんが中心市街

地を安心して通行できる、そういう環境を確保してまいります。

最後に三つ目は、教育環境の充実という柱であります。子どもたちや保護者の皆さんから要望が多かった、小中学校のトイレリフレッシュ事業を計上いたしました。トイレの洋式化、あるいは内装、配管などの改修については、既に当初予算にも入っておりますので着々と進めておりますけれども、予定していた 13 校分に加えて、新たに清水岡小学校など五つの学校のトイレの改修を行い、快適な教育環境にしたいと思っております。この取り組みをいっそう加速してまいります。

この結果予算額の累計は、一般会計が約 4,147 億円で、特別会計と企業会計、合わせた総額では、約 7,331 億円となりました。11 月補正予算の概要について私からは以上です。

#### ◆司会

それではただ今の件につきまして、各社さんからご質問がありましたらお願いいたします。ご質問の際は、社名とお名前をおっしゃってからお願いをいたします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは幹事社質問に移りたいと思います。日経新聞さん、よろしくお願ひいたします。

#### ◆日経新聞

日経新聞です。よろしくお願ひします。幹事社からは 2 点あります。

まず 1 点目が、先日行われた大阪都構想の住民投票は、大都市制度の在り方にも一石を投じました。全国の政令市で作る指定都市市長会は、特別自治市制度の創設などを提言しました。市長はこの特別自治市について、また大都市制度の在り方についてどのようにお考えでしょうか。

#### ◆市長

先週、ご承知のとおり、政令指定都市の市長会議を横浜で開きましたけれども、そのときにも議論になりました。私たちは静岡市として他の 19 市と連携をしながら、この法制化に向けて国に積極的に働きかけてまいりたいと思っております。既に私たち、この議論終えておりまして、基礎自治体を重視するという地方分権の法の枠組みになっておりますので、そのリーディングシティである政令指定都市が積極的に権限や財源を移譲をされた上で、行政運営をするべきだというふうに思っております。

市民に身近な基礎自治体の権限を強化するということは、政令市のみならず 60 の市で構成される中核市の市長会の市長とも先日、議論し、心合わせをしてきたところであります。私が中核市との連携の窓口の市長という役をもらっておりますので、先日、私たちのカウンターパートナーの大阪府の高槻市長ともそんな議論をし、まず政令市がとにかく道なき道を作っていくぞということをし、基礎自治体の強化を国に対して求めていきたいと思っております。以上です。

◆日経新聞

ありがとうございます。もう1点あります。大阪都構想を巡る議論では、二重行政が一つのテーマとなりました。川勝知事は県と静岡市を一体的に運営する静岡型県都構想を唱え、先日の住民投票後もこれに絡めたコメントを発表しています。市長はこの県都構想について、どのようにお考えでしょうか。

◆市長

これも既に申し上げたとおりでありますけれど、静岡市民が、明治22年に市制の施行と同時にできたチャーターメンバーの一つである静岡市を解体して、三つの特別区にするという県都構想は受け入れないというふうに思っております。望んでないというふうに思っております。私たちは先ほど申し上げました、基礎自治体としての特別自治市を求めていく。その中で権限強化をしていくという方向性を模索したいと思っております。

◆日経新聞

ありがとうございました。以上です。

◆司会

それではただ今の質問の関連で、各社さんからご質問がありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、その他、各社さんからご質問がありましたらお願いいたします。

静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。昨日、中部圏サミットが開かれまして、知事との意見交換の場としても久々だったのかなと思うんですけども、かつて市長はG3開催、最近は開催されていませんけれども、その辺に関しても意欲を示されていました。

その辺の知事との意見交換の場としては、今現在、どういった形が望ましいとお考えでしょうか。

◆市長

知事とお会いしたときには連携をしていきたいと思います、私の方から呼びかけております。昨日もそんな趣旨で5市2町の連携中枢都市圏と、県の所管をしている中部地域局は同じエリアですので、これ連携をしてwin-winの関係になっていきたい。

そして、車の両輪として、この地域の求心力を強めていきたいというふうに願っています。

◆静岡新聞

G3ってというのは、確かだいぶ前ですけれども、昨年1月の会見何かでは「開催を模索して」みたいな、会見でおっしゃっていたりもしたんですけれども、そういった枠組みってというのは現時点ではあまりこだわってないという感じなんですか。

◆市長

必要があれば開催をするということになるでしょう。

◆静岡新聞

あと、知事は、先ほどの県都構想の話もそうなんですけど、調整会議っていう形で開催したいというようなお考えだと思うんですけど、その辺の調整会議のご提案、知事のお考えに関してはどういうふうにお受け止めになりますか。

◆市長

それもまた然りですよ。調整する喫緊の実務があれば、それは開催をするということになるでしょう。その前に、やはり事務方できちっと。本当にそれぞれの県の部と私どもの局と、清水港のことにしてもそうですし、保健福祉医療のこともそうですし、実務的に連携が取れているというふうに私は理解しています。そこで取れているのであるならば、それはそれに任せていくということがいいんじゃないかというふうに思っています。

◆静岡新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。SBSさんお願いいたします。

◆SBS

SBSです。新型コロナウイルスの感染についてお聞きしたいんですけれども。今、全国的に見ても、県内を見ても感染が拡大している状況にあると思います。今日、静岡市でも5人、感染者が新たに発生していて、伊豆の国市ではクラスターもあり、静岡市そこまでもないと思うけれども、今の感染状況どのように見ているのかということと、市民に向けて改めて呼びかけをお願いします。

◆市長

昨日、尾身理事長が夜遅く緊急記者会見をされ、私もそれを注視しました。やはり、北海道をはじめとした厳しい状態、第3波になるかもしれないという尾身理事長の

危機感は、私も共有をしております。私は市の職員ともども、市民の安全安心を守っていかなくちゃいけません。その感染拡大防止と、社会経済活動の維持という二つのテーマのかじ取りをしていくということに全力を尽くしたいと思っております。

そのために大事なのは、静岡市の状況はどういう状況かと。北海道とは違う、東京とも違う。でも、G o T oもあるし、県外から静岡市内に入る方もいらっしゃる。ですので、やはり市民の皆さんは感染拡大防止のために、自らを守ってほしい。マスクを着用する、ソーシャルディスタンスを保つ等々、今まで私どもが啓発してきたことを順守しながら、また、お店の方も、そういう拡大防止の対策をきちっと取っているということならば、そこを利用していただきたいということでの、ぎりぎりの両立を図ってもらいたいと思っております。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。朝日テレビさんお願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

静岡朝日テレビです。桜ヶ丘病院に関してなんですけれども、12月に病院側が入札を予定されているかと思うんですけれども、現在の進捗状況などありましたら伺いたいです。

◆市長

先日、ご承知のとおり尾身理事長とトップ会談して、そこでの合意は、まず桜ヶ丘病院のみならず、清水区全体の医療体制というものはいかにあるべきかと、その流れの中で桜ヶ丘病院に何を求めていくのかという議論をしていこうということになりました。

これが決まらないと移転先等々の話も進まないということで、今、急ピッチで議論を進めているところであります。

◆静岡朝日テレビ

具体的に、今どういう作業をされているかっていうところは、お聞かせ願えますでしょうか。

◆市長

先ほどおっしゃったように、12月末までにということの中でありますので、まずは医師の確保というソフト面が大事でありますけれども、移転先というハード面も含めた上で、これを議論していくということであります。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございます。

◆司会

すみません。11月月末…

◆市長

11月月末か。あと、申し添えれば、県のほうともきちっと議論していかなければならないということでもありますので、国、県、市、行政連携をして、そして、桜ヶ丘病院の問題きちっと誠実に向き合おうと思っています。

◆司会

その他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日の定例記者会見を終了させていただきます。次回は11月27日、金曜日、11時からとなりますので、よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。